

The 19th Annual Meeting of Japanese Society of Nursing Art and Science

# 日本看護技術学会 第19回学術集会

## 講演抄録集

### 看護技術の美学

ハイブリッド開催

会 期：2021年10月9日(土) 現地(ウインクあいち)開催+一部WEBライブ配信  
2021年10月10日(日) WEBライブ配信のみ  
2021年10月1日(金)～25日(月) オンデマンド配信

会 場：10/9(土)のみ  
愛知県産業労働センター(ウインクあいち)  
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 JR名古屋駅から徒歩5分

学術集会長：篠崎 恵美子 (人間環境大学 看護学部)

事務局：人間環境大学 看護学部 〒474-0035 愛知県大府市江端町3-220

*The Meeting of Art and Science*

**0-13 国内における「床上排泄ケア」の概念分析**

○青木 紀子、深井喜代子  
東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科

**0-14 入院患者に排便排尿記録用紙を導入したことによる  
看護師の意識の変化と使用評価**

○鈴木 美幸<sup>1)</sup>、宮永喜美子<sup>1)</sup>、丸山 朱美<sup>1)</sup>、野月 千春<sup>2)</sup>、加藤木真史<sup>3)</sup>、  
矢野 理香<sup>4)</sup>  
1) 北海道せき損センター、2) 東京新宿メディカルセンター、3) 神奈川県立保健福祉大学、  
4) 北海道大学大学院保健科学研究院

**0-15 急性期病院における排尿自立ケアに関する  
看護師の取り組みの実態に関する調査**

○慶 貴子<sup>1)</sup>、水戸 優子<sup>2)</sup>、加藤木真史<sup>2)</sup>  
1) 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 看護部、  
2) 神奈川県立保健福祉大学 保険福祉学部 看護学科

**0-16 入院患者の排便パターンと看護師のアセスメントの実態  
—排便排尿記録用紙の導入とフローチャートによる分類—**

○宮永喜美子<sup>1)</sup>、鈴木 美幸<sup>1)</sup>、丸山 朱美<sup>1)</sup>、野月 千春<sup>2)</sup>、加藤 京里<sup>3)</sup>、  
加藤木真史<sup>4)</sup>  
1) 北海道せき損センター、2) 東京新宿メディカルセンター、3) 静岡県立大学、  
4) 神奈川県立保健福祉大学

**0-17 ベッドサイドの環境表面汚染度と患者の日常生活動作との関連**

○宇野 智子<sup>1)</sup>、矢野 理香<sup>2)</sup>  
1) 札幌医科大学 保健医療学部 看護学科、2) 北海道大学大学院 保健科学研究院

**0-18 看護学生が自分の眼球運動を見ることによる  
環境整備場面観察時の眼球運動の変化**

○大黒 理恵  
聖徳大学 看護学部

**0-19 輸液実施部位の中樞測から血管外漏出を予防しながら採血するための基礎研究**

○小池祥太郎<sup>1)</sup>、及川 正広<sup>2)</sup>、大崎 真<sup>3)</sup>、武田 利明<sup>4)</sup>  
1) 青森県立保健大学 健康科学部 看護学科、2) 東北福祉大学 健康科学部 保健看護学科、  
3) 東北文化学園大学 医療福祉学部 看護学科、4) 前岩手県立大学 看護学部

**0-20 更年期女性のQOLと睡眠パラメータ**

○田中美智子<sup>1)</sup>、江上千代美<sup>2)</sup>、野末 明希<sup>3)</sup>、津田 智子<sup>1)</sup>、有松 操<sup>4)</sup>、  
松山 美幸<sup>2)</sup>、長坂 猛<sup>1)</sup>  
1) 宮崎県立看護大学、2) 福岡県立大学、3) 宮崎大学、4) 鹿児島純心女子大学

**0-21 看護学導入期の学生のフィジカルアセスメント技術の学習で  
感じる困難～自己学習用webサイトのコンテンツの検討～**

○大橋久美子<sup>1)</sup>、加藤木真史<sup>2)</sup>、原田 朋代<sup>1)</sup>、大田 容子<sup>1)</sup>、有田 清子<sup>3)</sup>、  
北條 妙子<sup>1)</sup>  
1) 姫路獨協大学 看護学部 看護学科、2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、  
3) 湘南鎌倉医療大学 看護学部

**0-22 基礎看護技術への「ジグソー学習法」導入効果の検討学修の主体性を  
発言率で測る**

○新屋 智子  
京都中央看護保健大学校 看護保健学科

**0-23 血圧測定時の加圧・減圧における送気球ネジの把持に関する人間工学的研究  
—送気球ネジを外側と内側に把持した場合の比較—**

○畑瀬智恵美<sup>1)</sup>、藤長すが子<sup>2)</sup>、並川 聖子<sup>3)</sup>、吉田 香<sup>4)</sup>  
1) 名寄市立大学 保健福祉学部 看護学科、2) 北海道文教大学 人間科学部 看護学科、  
3) 園田学園女子大学 人間看護学科、4) 日本医療大学 保健医療学部 看護学科

**0-24 看護学部4年生のコミュニケーション・スキルに関する実態調査**

○瀧井 麻琴<sup>1)</sup>、菅原 清子<sup>2)</sup>、永谷 幸子<sup>2)</sup>  
1) 板橋中央総合病院、2) 静岡県立大学 看護学部 看護学科

**0-25 マスクの形状による表情認知への影響**

○酒田真由美<sup>1)</sup>、前田ひとみ<sup>2)</sup>  
1) 熊本大学病院 看護部、2) 熊本大学大学院生命科学研究部

**0-26 看護学生のコミュニケーション能力と共感性との関係**

○上野 栄一<sup>1)</sup>、西村 高宏<sup>2)</sup>、北出 順子<sup>3)</sup>、藤本ひとみ<sup>4)</sup>  
1) 福井大学 学術研究院医学系部門 基礎看護学、2) 福井大学 学術研究院医学系部門 医学教育・倫理学、  
3) 福井大学 学術研究院医学系部門 コミュニティ看護学、4) 福井医療大学 保健医療学部 看護学科

**0-27 患者の性格と看護師がとらえている患者の性格の相違について  
～エゴグラムを用いての検証～**

○山本 彩季、岩崎 仁美、松尾 凜砂、平野加恵子  
日本赤十字社 長崎原爆病院

### 0-21 看護学導入期の学生がフィジカルアセスメント技術の学習で感じる困難～自己学習用webサイトのコンテンツの検討～

○大橋久美子<sup>1)</sup>、加藤木真史<sup>2)</sup>、原田 朋代<sup>1)</sup>、大田 容子<sup>1)</sup>、有田 清子<sup>3)</sup>、北條 妙子<sup>1)</sup>  
 1) 姫路獨協大学 看護学部 看護学科、2) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、  
 3) 湘南鎌倉医療大学 看護学部

【目的】

A 大学では1年前期に日常生活行動の枠組みでヘルスアセスメントを教授しているが、限られた時間で必要な技術を修得するためには、学生の自己学習が不可欠である。そこで本研究は、看護学導入期の学生がフィジカルアセスメント技術の学習で感じる困難を明らかにし、学生の自己学習用 web サイトに必要なコンテンツを検討することを目的とした。

【研究方法】

A 大学のヘルスアセスメントの科目を履修する1年生69名を対象に、困難であったフィジカルアセスメント技術(以下、技術とする)に関して、無記名アンケートを各演習後に計6回行った。アンケートは、日常生活行動の枠組みの「生きていること」「動く」「コミュニケーション」「食べる・トイレに行く」「息をする」「恒常性維持のための流通機構」の各単元の演習で学ぶ技術項目ごとに困難点を自由記載したものである。また科目終了後には履修学生6名に対して、困難な技術や必要なコンテンツについての45分のグループインタビューを行った。困難な技術や希望するコンテンツについて類似内容をカテゴリー化し、自己学習用 web サイトに必要なコンテンツを検討した。

【倫理的配慮】

A 大学の生命倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号18-24)。アンケートは目的、匿名性、回収箱による回収等に関する説明をアンケート用紙冒頭に示し、回答をもって同意とした。インタビューはポスターを掲示して公募し、インタビュー前に研究者が対象者に目的と方法、匿名性、成績に影響のないこと、撤回の自由等について、文書を用いて説明して同意を得た。

【結果】

1) アンケート調査の結果

各アンケートの回答者数は平均10.7名であった。回答者の6割以上が困難と回答した技術項目は、血圧測定、呼吸測定、関節可動域の測定、瞳孔の観察、腹部の打診、肺の打診、心臓の聴診であった。なかでも9割以上が困

難とした項目は、血圧測定、関節可動域の測定であった。困難な内容として、血圧測定に関しては、上腕動脈の確認、指1~2本入る程度のマンシュートの巻き方、減圧開始時の調節ネジの緩め方、減速時の速度調節などがあつた。関節可動域の測定に関しては、角度計の使い方、測定部位・基準軸・移動軸の理解などがあつた。他にも回答数の多い内容として、嚥下テストにおける頸部の触知部位の確認、腹部の触診では実際の触診の深さや程度、肺の打診では正しい打診部位の確認、心尖拍動・スリルの触診では正しい触知部位の確認、肺の聴診では呼吸音の区別、心臓の聴診では心音の区別などがあつた。

2) インタビューの結果

アンケートで抽出されなかった内容として、教科書に書いてはいるが文字では理解しづらいこと、技術を可視化できる教材がよいこと、などが語られた。

【考察】

結果から、手技自体の難しさ、解剖学的な知識の理解、打診や聴診における音の聴取や判定、使用機器の操作の難しさなどが共通する要素と考えられる。打診・聴診における適切な位置の確認や、音の聴取と判定の難しさは、解剖学的知識の理解不足や聴こえる音の種類を理解していないことから生じるものである。さらには、教科書の記載だけでは実際のイメージがわきにくく、わかったと思っけても実施の際にはうまくできないという技術習得の困難さがうかがえた。以上より、学生の自己学習用 web サイトには、フィジカルアセスメント技術のポイントや各種機器の使い方を確認できる字幕付き動画コンテンツ、ならびに打診音や聴診音などの音源コンテンツが必要であると考えられた。

### 0-22 基礎看護技術への「ジグソー学習法」導入効果の検討学修の主体性を発言率で測る

○新屋 智子  
 京都中央看護保健大学校 看護保健学科

【目的】看護基礎教育検討会の報告書(2019)は、2022年のカリキュラム改正における看護師教育について「学生が主体的に学ぶことができる教育方法を推進」している。研究者は学生の主体性育成を狙い、基礎看護技術の授業にジグソー学習法を導入している。本研究は、ジグソー学習法を導入した授業において教員が意図通りに発言を操作できているかを点検するとともに、教員・学生の発言を測定・分析し、学習者である学生の発言をどの程度増やすことが可能かを測ることを目的とする。【研究方法】A 看護学校(3年課程4年制)の2020年度の基礎看護技術の授業(全15回、内容はフィジカルアセスメント)のうち、8回目の授業(実習室にて対面方式で実施)における学生と教員の発言を分析データとする。8回目の授業は、学生間の関係性が一定程度構築でき、前授業で学生が作成した指導計画書の修正が完了し、活動イメージが固まる時期であるため、本研究題材に適している。研究参加者は、授業担当教員1名(研究者)とその授業を受ける1年生41名である。授業中の発言を録音し、逐語録を作成した。授業開始からカウンターパートセッション(以下、CSとする)開始までの前半とCS終了から授業終了までの後半で2区分した。授業中盤のCSは学生のグループ学習であり教員発言はない為、分析から除外した。逐語録データはフランダース授業分析法(FIACS-Flanders Interaction Analysis Categories System)で分析した。結果表記時、看護教育に合わせ、生徒は学生、教師は教員と変更している。【倫理的配慮】対象学生には、参加の自由と中断の権利保障、参加是非による成績評価への影響を含む利益・不利益の非発生保証、匿名データ管理を記した研究概要説明書を配布し、自由意思に基づく参加同意を得た。所属施設倫理審査委員会承認済(令和2年9月)。【考察・結果】授業全体では607タリ(タリは発言数の単位)で、教員発言率57.5%、学生発言率35.6%、沈黙混乱率6.9%であった。授業前半は353タリで、教員発言率68.3%、学生発言率25.5%、沈黙混乱率6.2%、授業後半は254タリで、教員発言率42.5%、学生発言率49.6%、沈黙混乱率7.9%であった。教員発言率[間接的影響]

響]は前半13.6%から後半10.2%、教員発言率[直接的影響]は前半54.7%から後半32.3%と、後半では、意図通りに教員が学生に直接的に影響を与える発言が減っていた。学生発言率は、前半25.5%から後半49.6%と、後半に大きく増加させることができていた。他、発言数や発言率に関する詳細データは表中に示した。【結論】ジグソー学習法を導入した基礎看護技術の授業は、従来型の知識伝達型授業と比較し教員発言率と沈黙混乱率が低く、学生発言率を高める。特に後半の学生発言は前半の2倍となり、学生の学習の主体性を大きく引き出すことがわかった。

	授業全体 (中盤GWを除く) 31分12秒	授業前半 17分42秒	授業後半 13分30秒
タリ数計	607タリ	353タリ	254タリ
セル数(数値の入ったセルの数)	67	59	34
A: 教員発言[間接的影響]数	74タリ	48タリ	26タリ
B: 教員発言[直接的影響]数	276タリ	193タリ	82タリ
A+B: 教員発言数	349タリ	241タリ	108タリ
C: 学生発言数	216タリ	90タリ	126タリ
D: 沈黙混乱数	42タリ	22タリ	20タリ
E: 教員発言[支持・激励領域]数	42タリ	27タリ	15タリ
F: 教員発言[統制・支配領域]数	87タリ	42タリ	45タリ
G: 教員反応[間接的影響]数	32タリ	27タリ	5タリ
H: 教員反応[直接的影響]数	28タリ	18タリ	10タリ
I: 学生反応数	58タリ	43タリ	15タリ
J: 学生発言数	166タリ	46タリ	111タリ
K: コンテントクロス数	195タリ	175タリ	20タリ
A割合: 教員発言率[間接的影響]	12.2%	13.6%	10.2%
B割合: 教員発言率[直接的影響]	45.3%	54.7%	32.3%
A+Bの割合: 教員発言率	57.5%	68.3%	42.5%
C割合: 学生発言率	35.6%	25.5%	49.6%
D割合: 沈黙混乱率	6.9%	6.2%	7.9%

表. FIACSのマトリックス分析の結果

※タリ: 発言数の単位